

2007年3月期 決算概要

2007年5月14日
NECエレクトロニクス株式会社
代表取締役社長 中島 俊雄

<http://www.necel.com/ir/ja/>

NECエレクトロニクスの中島でございます。
ご多忙のところお集まりいただき、ありがとうございます。

2007年3月期決算概要についてご説明させていただきます。

I. 2007年3月期業績概要

- ✓ 売上高・損益ともほぼ前回見込み(2/22発表)通り

II. 2008年3月期業績予想

- ✓ 経営コミットメントである通期での営業損益黒字化必達
(固定費削減+若干の売上増で黒字化を実現)

III. 業績改善に向けた取り組み

- ✓ 2月22日発表の新経営方針を着実に実行中

こちらが本日のご説明内容のサマリでございます。

まず、昨年度の業績は、売上損益ともほぼ2月の経営方針説明会でお示した通りでございました。

次に、今年度の業績予想でございますが、2月にお約束した200億円の固定費削減を確実に実行すること等経営の効率化により営業黒字化を必達いたします。

最後に、新経営方針の実行状況等についてご説明致します。

I. 2007年3月期業績概要

＜ サマリ ＞

＜ 第4四半期 ＞

＜ 通期 ＞

II. 2008年3月期業績見通し

III. 業績改善に向けた取り組み

それでは、スライドの順に従いまして、説明させていただきます。

業績 サマリ

NEC

(単位:億円)	06/3期	07/3期				
	年間, 3/31	4Q		年間, 3/31		
	実績	実績	前年同期比	実績	前期比	前見込(2/22)比
売 上 高	6,460	1,714	+11	6,923	+463	+23
半導体売上	6,191	1,608	△13	6,597	+406	△3
営業損益	△357	△178	△13	△286	+71	+14
税前提損益	△424	△263	△19	△354	+70	+36
当期純損益	△982	△284	+594	△415	+567	+35
フリーキャッシュフロー	△48	△176	+21	△118	△70	-
D/Eレシオ	0.48倍	-	-	0.51倍	+0.03ポイント	-
株主資本比率	41%	-	-	38%	△3%ポイント	-
為替レート	1US\$=112円 1Euro=138円	1US\$=119円 1Euro=156円	対US\$ 2円安 対Euro 16円安	1US\$=117円 1Euro=149円	対US\$ 5円安 対Euro 11円安	

注1: 当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです。

NEC ELECTRONICS

4

まず、昨年度実績のサマリでございます。

昨年度の半導体売上高は、前年比406億円増加の6,597億円となりました。

また、営業損益は、前年比で71億円改善したものの286億円の損失、当期純損益は415億円の損失となりました。

I. 2007年3月期業績概要

＜ サマリ ＞

＜ 第4四半期 ＞

＜ 通期 ＞

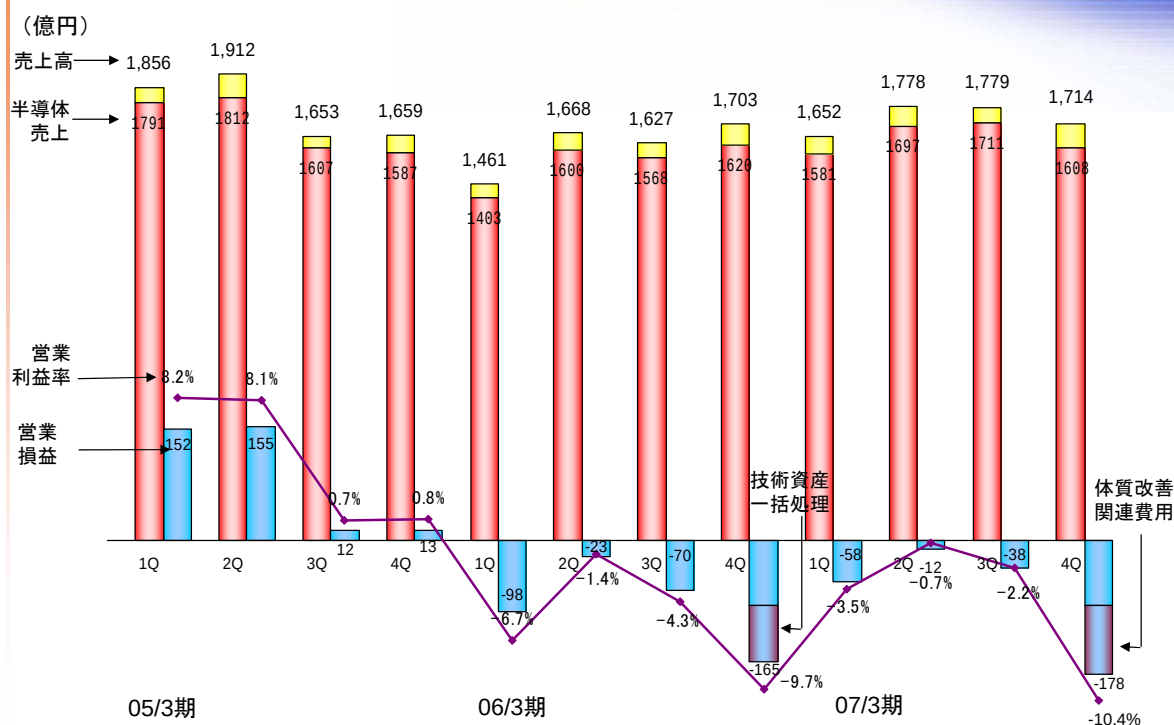
II. 2008年3月期業績見通し

III. 業績改善に向けた取り組み

次に、第4四半期の実績についてご説明致します。

四半期別業績推移

NEC



NEC ELECTRONICS

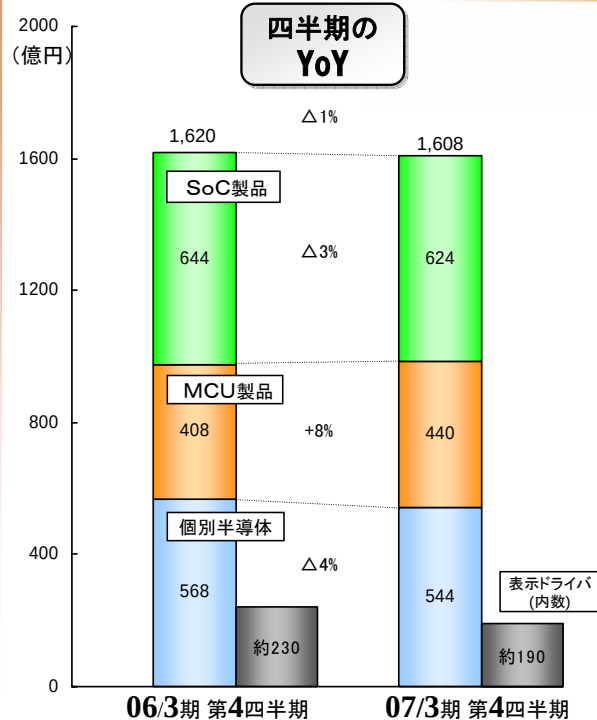
6

四半期ごとの業績推移です。

第4四半期は、半導体売上の減少や体質改善費用の計上等により営業赤字幅が拡大する結果となりました。

製品別 半導体売上高(前年同期比較)

NEC



主な変化要因

SoC製品

- +) ゲーム機器向けLSI出荷の売上増
-) DVDドライブ用LSI、携帯電話向けデジタルベースバンドLSI・メモリの売上減

MCU製品

- +) 自動車向け売上増
- +) オールフラッシュマイコンの売上拡大

個別半導体

- +) ディスクリット・化合物半導体の売上増
-) 表示ドライバは大型/小型とも売上減

NEC ELECTRONICS

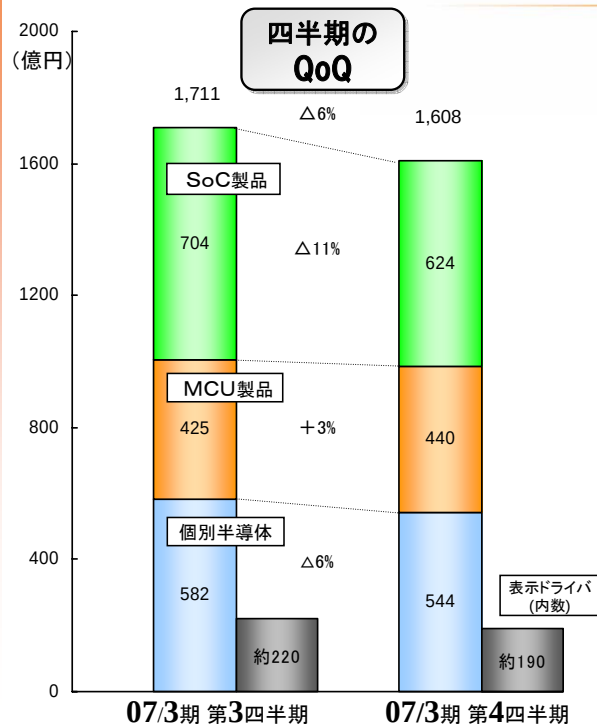
7

7ページは、第4四半期の製品別の半導体売上高を前年同期と比較したものです。

第4四半期は、MCU製品の売上増があったものの、表示ドライバの調整等により、前年同期比で1%の減収となりました。

製品別 半導体売上高（前期比較）

NEC



主な変化要因

SoC製品

－) 民生機器・PC周辺機器向け全般で、季節調整の影響を受け売上減

MCU製品

＋) 自動車向け売上増、汎用マイコンも微増

個別半導体

－) ディスクリートは季節減
 －) LCDドライバは大型/小型とも減収

NEC ELECTRONICS

8

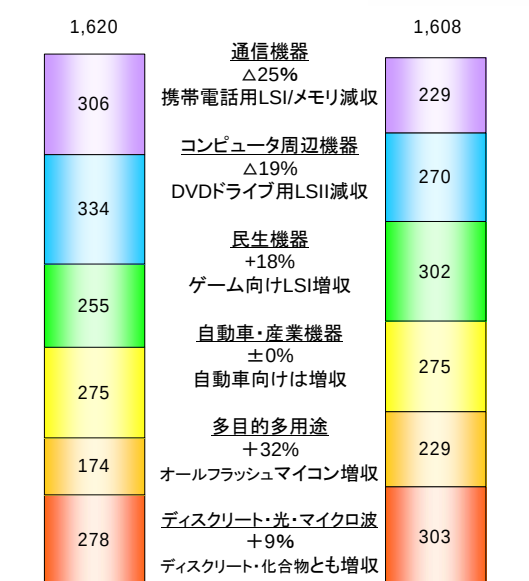
また、第3四半期との比較では、MCU製品が比較的健闘した以外は、ほぼ全般的な季節調整に加え一部製品での在庫調整の影響を受け、約6%の減収となりました。

分野別 半導体売上高

NEC

(億円)

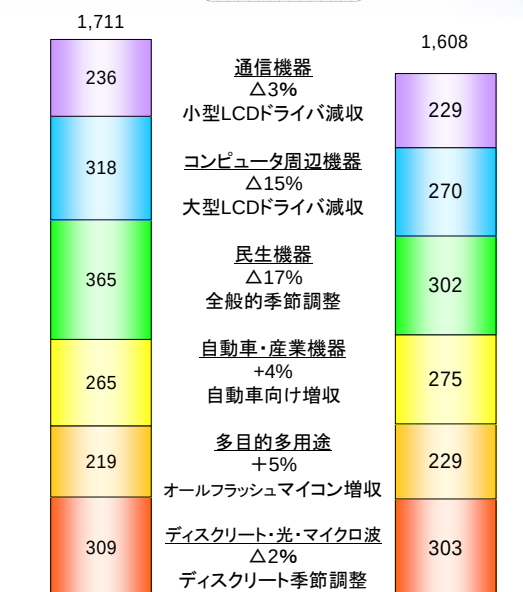
四半期の
YoY



06/3期 第4四半期

07/3期 第4四半期

四半期の
QoQ



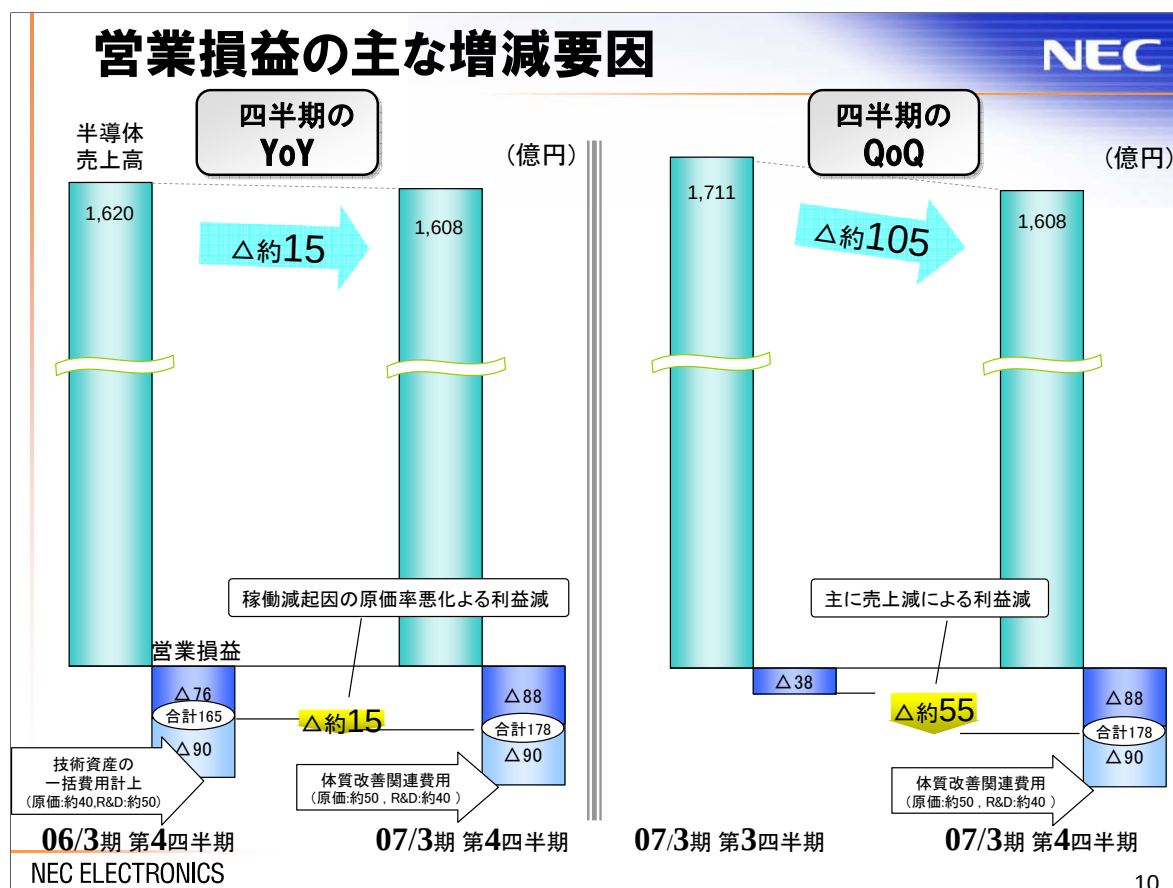
07/3期 第3四半期

07/3期 第4四半期

NEC ELECTRONICS

9

次に、分野別に見てみますと、第4四半期は、前年同期比・前期比とも、コンピュータおよび周辺機器分野が大きな減収となりました。



10ページは、第4四半期の営業損益を前年同期および前期と比較したものです。

後にご説明します体質改善関連費用の影響を除いたベースでも、前年同期比では稼働調整による原価率悪化により、第3四半期との比較では売上減により、それぞれ営業損益が悪化致しました。

I. 2007年3月期業績概要

< サマリ >

< 第4四半期 >

< 通期 >

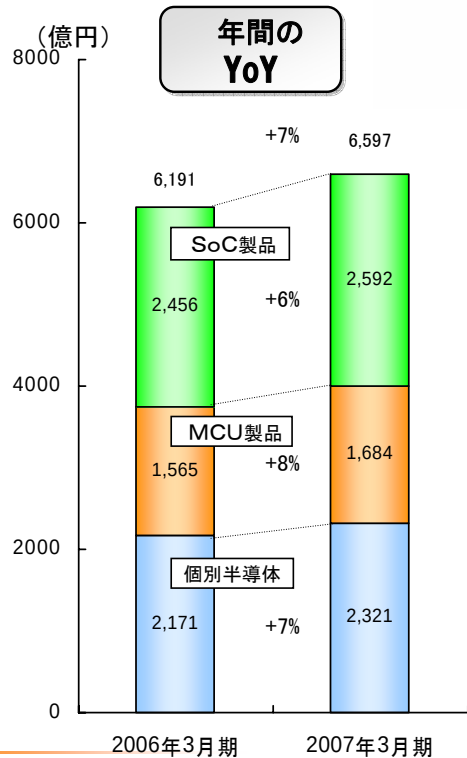
II. 2008年3月期業績見通し

III. 業績改善に向けた取り組み

次に2007年3月期通期の実績をご説明致します。

製品別 半導体売上高

NEC



NEC ELECTRONICS

12

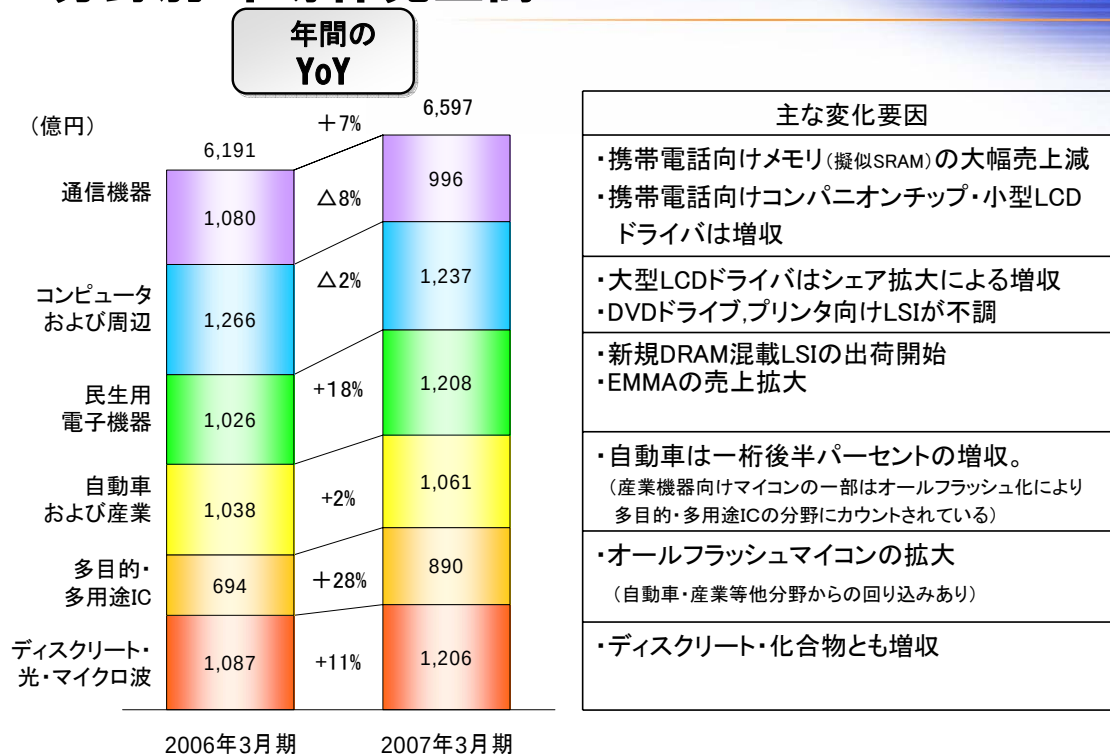
主なプラス要因／マイナス要因
SoC製品 十) DRAM混載製品の新規ビジネス立ち上り 十) デジタルAV機器向けEMMAの売上増 一) 携帯電話用メモリ(擬似SRAM)の価格下落と市場縮小
MCU製品 十) オールフラッシュマイコンの立上り 十) 自動車電子化率の着実な進展
個別半導体製品 十) LCDドライバは大型/小型とも売上増 十) ディスクリート・化合物もシェア拡大による売上増

まず、製品群別の半導体売上高でございますが、全体では前年比7%の成長となりました。

SOCでは新規の民生向け大型プロジェクトの立上がり、MCUは汎用・車載とも伸張り、個別半導体もほぼ全製品で売上増となりました。

分野別 半導体売上高

NEC



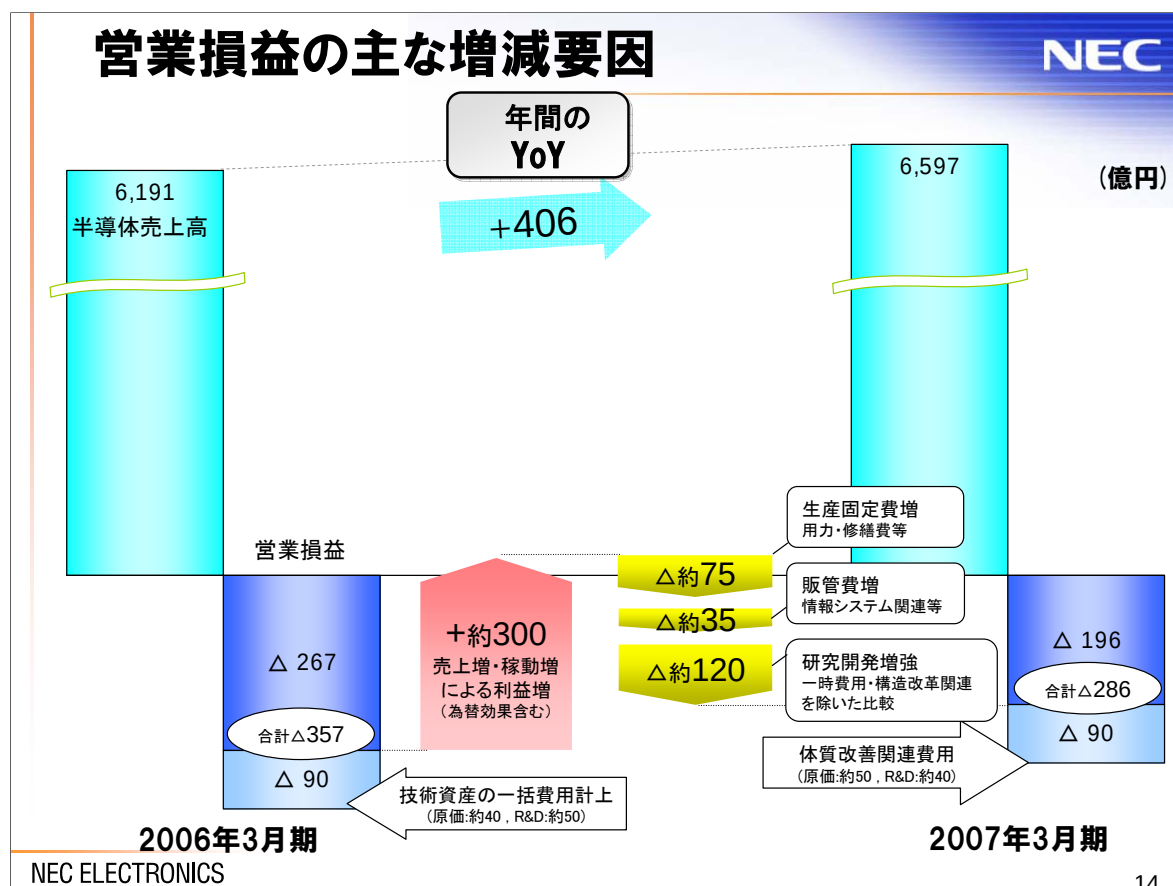
NEC ELECTRONICS

13

アプリケーション別で比較致しますと、

通信機器分野の携帯電話向けメモリが大幅売上減となったものの、民生機器分野、多目的・多用途製品とディスクリート・光・マイクロ波で二桁の増収となり、全社の半導体売上増加を牽引致しました。

一点補足させていただきますと、自動車・産業分野等で使用されていた従来型(マスクROM式)マイコンがオールフラッシュへの切り替わりにより多目的・多用途に売上が分類されるため、多目的・多用途が実勢よりも数字として強めに出る傾向がございます。



体質改善関連費用等の一時的な費用を除く実質ベースで、営業損益を前年と比較いたしますと、

売上増・稼動増による利益増が約300億円あったものの、生産増に伴う関連固定費の増加や研究開発の増強による費用増などにより、実質ベースにおいても196億円の営業損失となりました。

体質改善関連費用について

ほぼ前回(2/22)計画通り体質改善施策を実施し、
約150億円の関連費用を計上

費目	金額	主な内容
原価	約50億円 (4Q)	・たな卸資産のスリム化等
研究開発費	約40億円 (4Q)	・開発プロジェクト集約に関わる費用等
営業外費用	約60億円 (通年)	・アイルランド工場、相模原8φ試作ライン閉鎖 ・生産関連設備の廃棄等

次に、体質改善関連費用についてご説明致します。

営業損益ベースでは、たな卸し資産のスリム化や開発プロジェクトのキャンセル費用処理などを予定通り実施し、第4四半期に約90億円を計上致しました。

また、アイルランド工場と相模原8インチ試作ライン閉鎖に伴う営業外費用を上期を中心に計上致しました。

いづれも、ほぼ、2月の説明会でご説明した通りとなっております。

バランス・シート

NEC

(単位: 億円)		06/3	06/12	07/3
現金および現金同等物		2,111	2,126	1,854
受取手形および売掛金		1,139	1,051	995
たな卸資産		725	890	826
有形固定資産		3,021	3,057	2,928
その他の資産		457	393	356
総資産		7,453	7,517	6,959
支払手形および買掛金		1,229	1,507	1,325
社債および借入金		1,483	1,447	1,360
その他の負債		1,617	1,570	1,575
負債		4,329	4,524	4,260
少数株主持分		41	46	48
株主資本		3,083	2,948	2,651
負債および資本合計		7,453	7,517	6,959
D/Eレシオ(グロス)		0.48倍	0.49倍	0.51倍
株主資本比率		41%	39%	38%
繰延税金資産(NET)*		△16	2	△2

注記: 上記繰延税金資産は、繰延税金資産と繰延税金負債NETして表示しております。

NEC ELECTRONICS

16

次にバランスシートです。

たな卸資産は、昨年12月末時点で890億円と高い水準にありましたが、第4四半期において生産調整を行ったことにより、3月末時点で826億円まで減少いたしました。

キャッシュ・フロー

NEC

(単位：億円)	06/3期		07/3期		
	4Q	年計	3Q	4Q	年計
営業活動により増加した キャッシュ・フロー	△5	499	195	127	667
投資活動により減少した キャッシュ・フロー	△192	△547	△271	△303	△785
フリー・キャッシュ・フロー	△197	△48	△76	△176	△118

NEC ELECTRONICS

17

キャッシュ・フローはご覧の通りです。

当期純損失が415億円となったことや、設備投資に伴う支払い増などにより、フリー・キャッシュ・フローは118億円の支出となりました。

I. 2007年3月期業績概要

- < サマリ >
- < 第4四半期 >
- < 通期 >

II. 2008年3月期業績予想

III. 業績改善に向けた取り組み

続きまして、今年度の業績予想についてご説明致します。

当社事業対象マーケットでは前年比2%～8%の成長と予測

(DRAM, FLASH, MPU除く半導体、当社予測)

	前年同期比	マーケット環境
上期 (4-9月)	0 ~ +2%	上期前半は、在庫調整が一服し足元での受注も回復感はあるものの、製品売上ベースでは夏前からの寄与となり、上期全体での成長率は限定的。
下期 (10-3月)	+5% ~ +9%	オリンピックに向け年央から、デジタルテレビやPC関連等が急拡大し、半導体市場を牽引。 1-3月期もオリンピックを控え前年ほどの需要落込みは無い。
通期 (4-3月)	+2% ~ +8%	左記の幅の中央値である年5%の成長を見込む。

NEC ELECTRONICS

19

業績予想を説明させていただくにあたり、まず、当社が今年度の半導体市場をどう見ているかについて簡単に触れさせていただきます。

DRAMやMPUなどを除く当社の事業領域で見ますと、上期は足元で回復感があるものの売上ベースでの成長率は限定的と見ています。

下期は、オリンピックに向けたデジタルテレビやVISTA需要によるPC関連などが市場を牽引すると見ています。

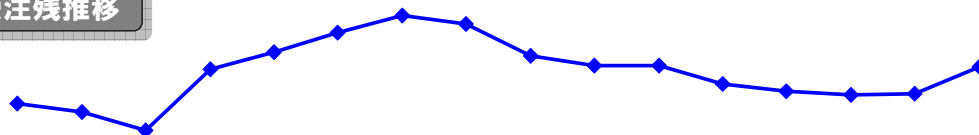
通年では、前年比で2～8%の成長、すなわち中央値で5%近辺に落ち着くのではないかと考えています。

当社の受注残・受注高の推移

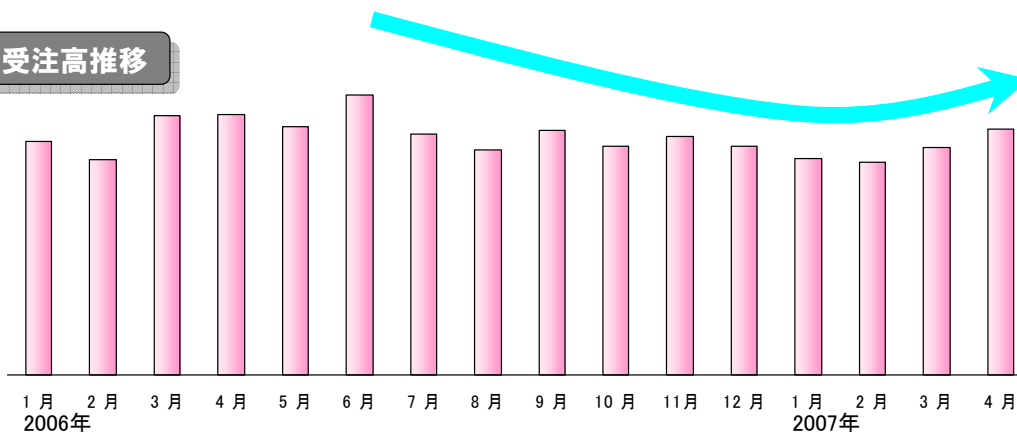
NEC

受注残・受注高とも底打ち、昨年度末から回復基調へ

受注残推移



受注高推移



NEC ELECTRONICS

20

このページは、当社の受注残と受注高の月別推移をお示したものです。

ご覧頂ける通り、受注残・受注高とも、既に底を打ち、3月前後から回復基調にあります。特に、ディスクリート等の汎用製品や大型LCDドライバなどで強い回復感が出てきております。

市場成長率見込み2%~8%の下限である2%を前提に業績予想を作成

(単位:億円)	07/3期		08/3期		
	中間期	通年	中間期	通年	
	実績	実績	見込み	見込み	前年比
売上高	3,430	6,923	3,350	6,900	△23
半導体売上高	3,278	6,597	3,250	6,700	+103
営業損益	△69	△286	△50	0	+286
税前損益	△56	△354	△120	△100	+254
当期純損益	△74	△415	△150	△150	+265
為替レート	1US\$=115円 1Euro=145円	1US\$=117円 1Euro=149円	1US\$=115円 1Euro=150円	対US\$ 2円高 対Euro 1円安	

注1: 当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです。
 注2: 減価償却方法の変更はありません。
 注3: 予想は2007年5月14日現在

NEC ELECTRONICS

21

以上をふまえて、2008年3月期の業績予想についてご説明致します。

先ほど、当社は半導体市場の成長率を2~8%のレンジで見ているとご説明いたしましたが、この半導体売上高予想はその下限(ワーストシナリオ)である市場成長率2%を前提に保守的に作成しております。

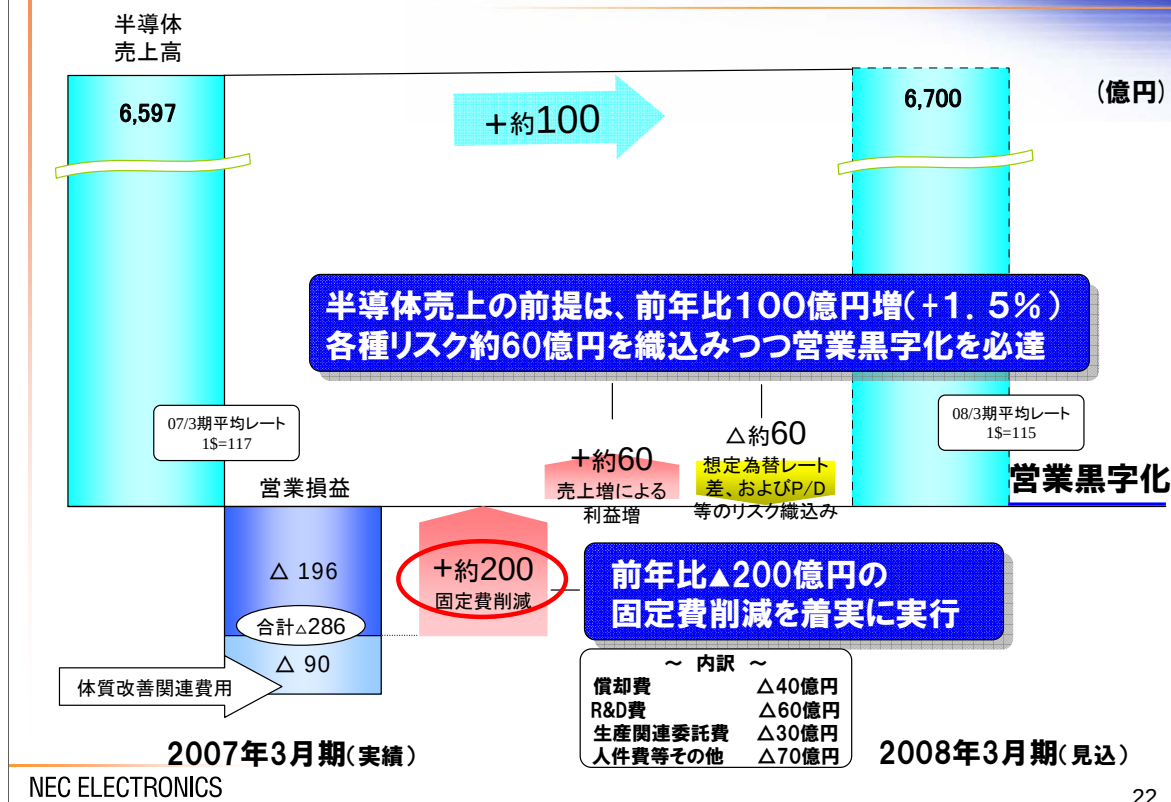
通期の半導体売上高は、前年比約100億円増加の6700億円としております。

通期の営業利益ベースでは、最低でもゼロ以上、黒字化を達成致します。

しかしながら、税前損益・当期純損益では依然赤字が残る見込みでございます。

業績予想における営業黒字化の考え方

NEC



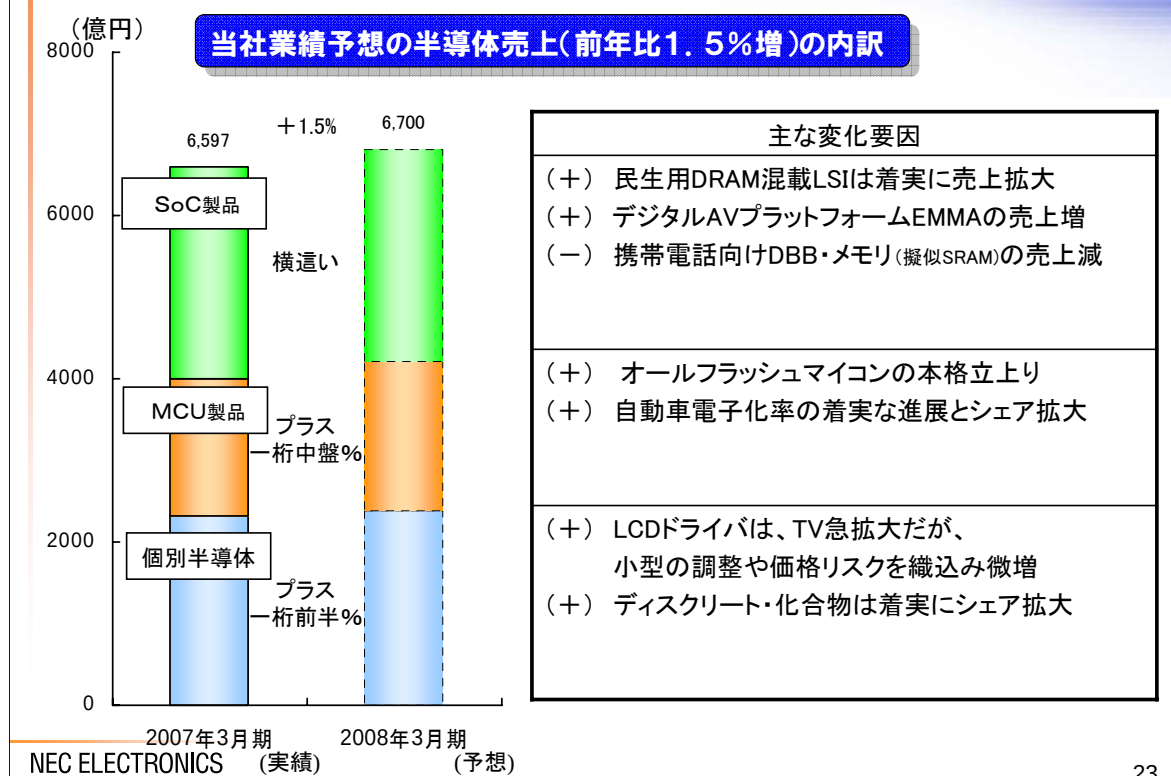
次に、今年度業績予想における営業黒字化の考え方でございますが、

2月の説明会でご説明したとおり、前年比で200億円の固定費削減を着実に実行して参ります。

また、100億円の半導体売上増による限界利益増が見込まれますが、想定為替レート差や各種リスクも織込んだうえで、営業黒字化を必達するという考え方でございます。

製品別 半導体売上高

NEC



23

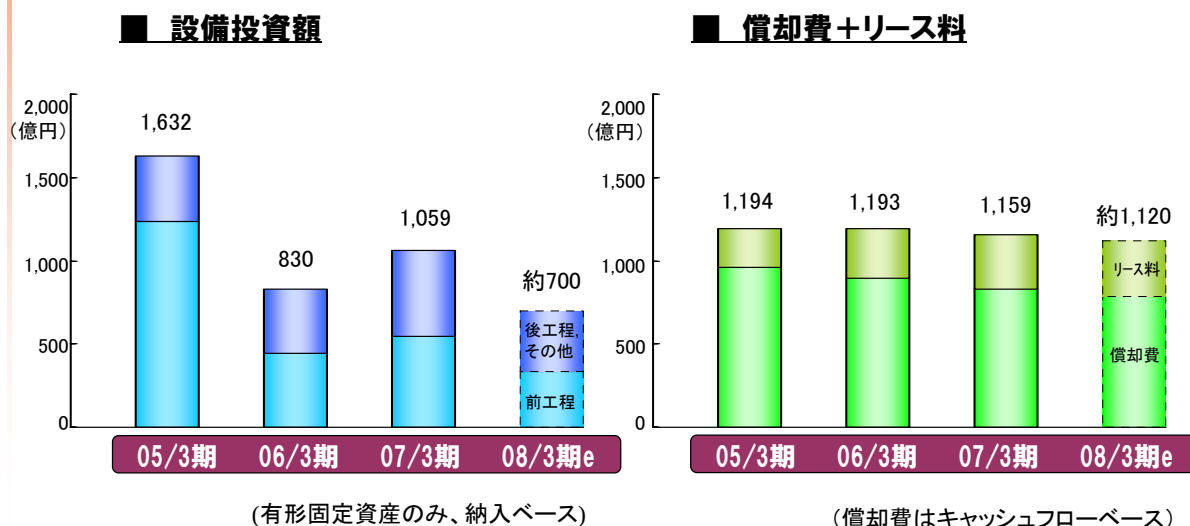
今年度の半導体売上成長見通しの製品別内訳です。

SOCにおいては、民生関連のDRAM混載LSI等が伸張するものの、携帯電話用デジタルベースバンドLSIとメモリの減収を想定し、ほぼ横這いとしています。

MCUは、汎用・車載とも増収となりますが、成長率は控えめに一桁中盤プラスとしています。

個別半導体においては、小型LCDドライバの調整の長期化や価格リスク等を織込み、微増と見ております。

- ・ 08/3期の設備投資額は700億円に抑制
- ・ 車載用マイコンや55nm等の高付加価値製品に投資集中



次に、設備投資と減価償却・リース料の見通しです。

今年度の設備投資は、2月の説明会でご説明したとおり、約700億円に抑制いたします。投資内容は車載マイコンや55nmプロセス等の高付加価値製品に集中いたしますが、従来から継続している生産革新活動による生産能力増もあり、想定以上の市況のアップサイドがあっても生産対応は十分可能であると考えています。

また、償却費とリース費は、前年比40億円減となる見込みです。

I. 2007年3月期業績概要

- ＜ サマリ ＞
- ＜ 第4四半期 ＞
- ＜ 通期 ＞

II. 2008年3月期業績見通し

III. 業績改善に向けた取り組み

最後に、業績改善に向けた取り組みについてご説明致します。

新経営方針(2/22発表)の進捗状況

NEC

新経営方針の着実な実行に向け、全社プロジェクトを立ち上げ

項目	主な施策	進捗状況
フォーカス分野の絞込みによる製品競争力強化	約600人相当の技術外注削減	済み
	約400人の社内開発リソースのシフト	約半数済み (今年度中に400名完了予定)
生産マップ再編によるコスト削減	再編の詳細スケジュール策定	済み
	顧客認定取得準備	着手
	関連設備の手当ての準備	着手
損益管理強化のための事業組織体制	SoC/MCU/個別半導体を損益責任単位としてBU化 *部門数を18削減(59→41)し、人材の流動性と効率化を促進	組織変更済み
08/3期黒字化に向けた固定費削減	技術外注費削減	済み(上記)
	設備投資抑制等による生産固定費削減	投資削減予算策定済
	従業員給与/賞与カット	実施中

NEC ELECTRONICS

(進捗状況は2007年5月14日現在)

26

2月の説明会でご説明した構造改革の着実な実行に向け、経営レベルで進捗を管理するプロジェクトを立ち上げております。

各施策の主な進捗状況を説明させていただきます。

①「フォーカス分野絞込みによる製品競争力の強化」においては、社内開発リソース・シフトは第一陣400人のうち半数の異動を完了しています。また、サードパーティとの600人相当の開発契約をキャンセルいたしました。フォーカス分野絞込みやリソースシフトについてはこれらに留まらず、引き続き検討中であります。

②「生産マップ再編によるコスト削減」については、詳細な実施スケジュールを策定致しました。現時点で内容は申し上げられませんが、追加施策も含めて着実に実行して参ります。

③「新事業体制」については、SOC/MCU/個別半導体事業を損益責任単位としてビジネスユニット化いたしました。このビジネスユニットには生産基地も直結させたことで、より実行性のある損益管理やコスト削減が可能になると考えています。

また同時に、人材の流動性と効率化の促進を目的として、全部門数の約1/3にあたる18部門を削減・統合いたしました。

④「固定費削減」につきましては、前述の技術外注費削減や設備投資抑制に加え、役員・従業員の賃金カットを実施中であります。

これらの施策を着実に実行することは当然であります。さらなる構造改革施策を検討中であります。

- 今年度の営業黒字化は、経営陣全員による「最低限のコミットメント」であり、必達する
- さらに経営体質の改善に努め、一層の営業利益の上積みを図る

NEC

NEC Electronics Corporation

(将来予測に関する注意)

本資料に記載されている当社および連結子会社(以下NECエレクトロニクスと総称します。)の計画、戦略および業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等は、様々な要因により、これら見通し等とは大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。実際の業績等に影響を与える重要な要因としては、(1)NECエレクトロニクスの事業領域を取り巻く日本、北米、アジア、欧州等の経済情勢、(2)市場におけるNECエレクトロニクスの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、(3)激しい競争にさらされた市場においてNECエレクトロニクスが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを供給し続けていくことができる能力、(4)為替レート(特に米ドルと円との為替レート)の変動等がありますが、これら以外にも様々な要因があります。また、世界経済の悪化、世界の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の低迷等により、実際の業績等が当初の見通しと異なる結果となる可能性もあります。

**以下、ご参考資料
～ ビジネスハイライト ～**

デジタルコンシューマ(モバイル)機器向けアプリチップ MP201

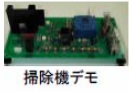
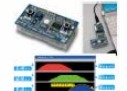
ソニー:ウォークマン「NW-A800シリーズ」に採用

携帯電話向け開発資産のデジタルコンシューマ分野への展開事例

- ✓ 低消費電力でのQVGA動画・音楽再生に最適なアプリケーションプロセッサ
- ✓ ソフトウェア・プラットフォーム 'Ovia' に準拠
- ✓ IP流用により機種展開が容易

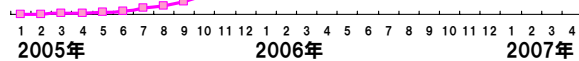


オールフラッシュマイコンの拡販基盤強化事例

デモ・システム、拡販ボード			WEB	セミナー	書籍
 V850+ヤマハ YGV626	 掃除機デモ	 ReferSTAR 78K/Kx2	 78K0マイコン初級コース eラーニング	 オープンセミナー(東京)	 78K0
 V850+アクセル AG301	 PCファン デモ	 K0R 拡販ボード	 サンプルプログラム	 オープンセミナー(大阪)	 Interface V850
 音声合成デモ	 ZigBeeデモ	 いろは姫	 Flashアプリノート	 パートナー・セミナー	

オールフラッシュマイコンの累計出荷数量実績

2006年中盤から
急拡大！



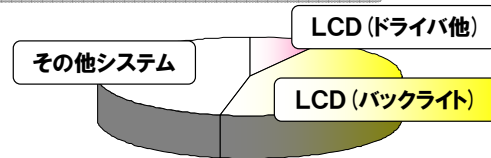
NEC ELECTRONICS

モバイル機器向けLCDバックライトコントロール技術を開発

～ 同IPを搭載した究極の低消費電力小型LCDドライバによる付加価値ビジネス ～

携帯電話端末全体の消費電力の約4割をLCDバックライトが消費

- ✓ ワンセグ放送、動画、3Dグラフィック等のケータイ表示コンテンツの進化
- ✓ 消費電力 ⇔ 画質(バックライト輝度等)のトレードオフ関係



(携帯電話のブロック別消費電力量内訳 当社調べ)

独自差異化技術による高付加価値製品プレミアム

- ✓ LCD表示画像に応じて最適なバックライト輝度やγカーブをリアルタイム制御
画質低下を抑え最大50%(システム全体の20%)の消費電力を削減可能
- ✓ 国内外の大手携帯電話メーカーにデザインイン



画像認識並列処理プロセッサ IMAPCAR

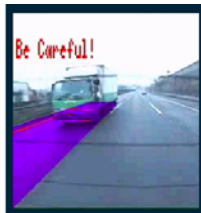
トヨタ自動車、デンソー、NECとのコラボ開発

- ✓ 128個の演算ユニットによる並列処理で1000億回/秒の演算性能により
白線、先行車、歩行者などの画像をリアルタイムに認識
- ✓ レクサス「LS460」のプリクラッシュセーフティ機能用画像認識LSIとしても採用

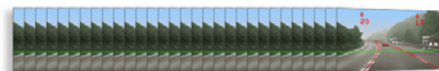
白線・前方車認識



後側方車認識



30フレーム/秒の認識処理



日刊工業新聞社「第4回モノづくり部品大賞」を受賞